

新しい観光と新しいまちづくり

ロープウェイが大涌谷駅までつながり、黒たまごの販売も再開され、GW は道路も渋滞し、箱根は徐々にもとの姿に戻ろうとしています。しかし、ここでホッとしてはいけないと思うのです。忘れてはなりません。いつ繰り返すか分からない自然現象の中に私たちのなりわいはあることを。

そんな反省を次に活かそうと、観光をなりわいとする者の視点で「小田原・箱根の観光ビジョン」をまとめました。5月17日の会員大会にて今年度の事業計画と共に発表します。アレックス・カー氏の講演もお薦めです。ぜひ、ご参加ください。

新しい観光として注目されているのが、メディカルツーリズムです。旅行を楽しみながら、健康な体づくりをしてしまおうという新しい旅のかたちです。実は、小田原の久野のJT工場跡地で計画中のイオングループの新店舗をそのための施設にできないかと検討中です。

「いのち輝くまちづくり構想」という名称で、次の6つの要素を持った新しいまちを創ろうという取り組みです。

1.地域医療体制との連携・健康増進施策の推進

老朽化し建て替えが待たなしの市立病院を、最先端の医療施設として更新、誘致。

1)まずは、地元住民に安全安心な医療体制を整備し、

2)さらに、国内外から健康関連の需要を呼び込み、新しい観光の核とする

2.定住人口増につながる良質な住宅の提供

医療・健康関連施設と隣接し、かつ、災害に強い安全安心な住環境を整備。

3.交流人口増(メディカルツーリズム)による新しい商業の需要の創造

最先端の医療施設で最先端の健康チェックを提供。箱根の温泉とも連携し、国内外からの集客を図る。

4.県の「未病を治す」拠点としての機能と位置づけ

5.防災センターとしての機能

6.最先端エネルギーのモデルタウン(省エネと創エネによるスマートシティ)

こんな新しいまちを、地元の意見を入れながらイオンの力を借りて創ろうという発想です。昨年、7月からイオングループ、小田原市、神奈川県、そして、当所の4者による研究会で2年間をかけて基本計画を策定すべく活発な議論をしています。

大きな課題は2つあります。

1.もともと工場であった場所に集客・商業施設を作る際の土地の用途地域

2.県西地域の中核病院である市立病院の更新・移転

用途地域は、むやみに商業を広げるということではなく、地域経済全体にとってプラスになるように、雇用をどう増やし、既存の商業とバッティングしない新しいマーケットをどう創るかという視点が重要です。(1月に発表した「地域経済の循環の可視化レポート」を参照ください)

市立病院の更新を含む地域医療の再整備は時間がかかっても避けて通れない課題です。経済の観点からしても、安心して子供を産めたり、介護やケアが充実した良好な住環境を整備することは、地方創生の最大のテーマである定住人口増にとって必須です。

これからは行政のみならず、住民、医療関係の方々とも様々な場面で話し合ってもらいます。外からの大資本を拒絶するのではなく、地元にとって利のあるように上手に利用させていただくというしたたかさが肝要かと思います。これからの動きに注目していただきたいと思います。

会頭 鈴木悌介